

特定非営利活動法人「飛んでけ！車いす」の会



授賞団体紹介

○代表者：代表理事 吉田 三千代 氏

○活動歴：

- ・平成10(1998)年5月17日 「飛んでけ！車いす」の会設立
- ・平成14(2002)年 第1回パートナーシップ大賞 受賞
- ・平成16(2004)年 外務省NGO活動環境整備支援事業（NGO相談員）受託
- ・平成19(2007)年 日タイ障がい者フォーラム開催
- ・平成26(2014)年 札幌市内向け「車いす利用者のためのバスガイドブック」作成
- ・平成27(2015)年 読売福祉文化賞（読売光と愛の事業団）受賞
- ・平成29(2017)年 道新ボランティア奨励賞（北海道新聞社会福祉振興基金）
- ・平成30(2018)年 設立20周年記念講演会、「もってけ！車いす」若者派遣事業
JICA草の根協力事業『車いす整備・修理技術の移転in Bali』スタート
- ・～現在 3,000台めの車いすがベトナムに運ばれる

授賞理由

日本で使用されなくなった車いすを集め、利用者のニーズに合わせて整備し、発展途上国の障害者に、海外旅行をする人が届けるといった活動を、20年以上地道に行っている。設立以来、80か国以上に3,000台を超える車いすを届けている。

このような活動は、障害者の自立を支援し、さらに、旅行者が届けるといった特色ある活動は、堺市民にとって、国際協力への関心を深めるきっかけになることが期待できるものとして高く評価する。

活動のきっかけ

1997年に訪問したバングラデシュとネパールで現地の障がい児・者と出会い、車いすがあれば「学校に行ける」「お祭りに参加できる」など生活が広がると私（吉田）は思いました。車いすは養護学校では余っている物もありましたが、船便送料は高く、頓挫しそうになりました。その時に友人から、北海道大学医学部4年（当時）の柳生さんを紹介してもらいました。彼はゼミ旅行で、アジア2か国に車いすを、預け入れ手荷物として運び、先方に喜ばれたという体験がありました。旅行者がボランティアとして気軽に運べ、お金もかからないという素敵なアイデアです。私と柳生さんが中心となり、1998年5月に会を設立しました。

目的やこれまでの取り組み

「私たちは、障がいや国境の垣根を越え、誰もがその人らしく生きる社会の実現をめざします」というビジョンのもと、日本で使われなくなった車いすを集め、整備・修理をし、海外旅行をする旅行者の手荷物として、発展途上国の病院や施設に、直接送り届ける活動をしています。これまで、世界81か国に3,000台以上の車いすを、受領者の身体やニーズに合わせて、一台、一台丁寧に届けています。届けた国へのスタディーツアーや聞き取り調査をきっかけに、2015年からは海外で「車いす整備・修理講座」を開催しており、現地で人材育成をして、より長く、安全に乗っていただける取り組みをしています。

また、国内でも車いすの貸出や整備サービス、「車いすの学校」という整備講習プログラムの展開により、公共福祉や社会のはざまにいる方たちへの支援も始めています。



バリ島整備講座



セブ島に届いた車いすと運んだ旅行者

大切にしていることや将来の展望

当会は特定非営利活動法人としては老舗で、社会的な活動をしている団体ですが、ボランティアと会員の方たちによって支えられています。本当にありがたいと思います。車いすの整備ボランティアの最高齢は82歳で、会員も初期のころから支援いただいている方は、シニア世代が多くなりました。「車いす」というキーワードを通して、やりがいや情報を共有し、双方向の交流をめざしてきました。

継続には世代交代が必要ですが、少し増えてきた学生ボランティア、社会人ボランティアが力になってくれれば、今後も続けていけるだろうと思います。世界中で車いすが必要な人は、7,000万人というWHOの統計もあります。今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、旅行者はいませんが、船便のコンテナに数台ずつ運んでくれる会社が2社、支援を始めてくれました。

授賞の感想や授賞団体にとっての賞の意味

地味な活動を続けている、北海道にある小さな団体を、みつけていただいたことに感謝します。堺市が、その歴史とともに、国際的な人権・平和活動を続けてこられたことを、知りました。私たちの活動の根底にあるビジョンも同じ源流ですが、賞をいただくことで、改めて団体内で問い直してみたいと思います。車いす一台、一台は、世界のニーズにとっては、大河の一滴ですが、長く続けることで、こんなうれしいこともあるのですね。ありがとうございます。

堺市の思い

車いすをリサイクルし、海外旅行をする人が届けるという、特色ある活動をしています。

届けることを依頼された人は、国際協力に関心を深めたり、一層国際活動に取り組むようになるなど、人材育成も図っているところが非常に意義深いと考えています。

